論文不正　2019/05/21

読売新聞 （2019/05/10）：

東洋英和女学院（東京）院長、同女学院大教授（近代ドイツ宗教思想史）の深井智朗氏（５４）による研究不正問題。女学院は１０日、都内で記者会見を開き、深井氏を同日付で懲戒解雇にしたと発表。

委員会が氏の著作に捏造のほか、盗用があったと認定したのは、「ヴァイマールの聖なる政治的精神」（岩波書店）と、雑誌「図書」（同）に掲載された「エルンスト・トレルチの家計簿」。

「ヴァイマール」で紹介した「神学者カール・レーフラー」は存在せず、その論文も捏造であると認定している。

今、机上に、深井さんの新書版「プロテスタンティズム　宗教改革から現代政治まで」あり。中公新書で「あとがき」に、

・・中央公論新社の練達の編集者上林達也氏・・不完全な原稿を何度も読んだ下さり・・上林氏なしには本書は完成しなかった・・。

この力作は、読売・吉野作造賞を受賞しているが、この数日前に取り消された。

この本の内容を云々する学力・知力・気力もないが、読後感、

①引用満載の参考文献で、文系論文の限界を感じる。

②この書の偽造と捏造が存在するかは、今は報道なし。

③授賞取り消しなら、中央公論新社と編集者の責任は重い。

④著明な発行社の編集者のレベルの低下と授賞選考過程の制度疲労。

⑤吉野作造の思想と深井氏の著書内容とは関連性がない⇒吉野作造の思想と「賞」との整合性は？

欧米（欧？）のジョークに：

一人の著者を引用すると盗作、多数の著者を引用すれば研究

この機会に、感じたのは、

歴史研究は、引用するか、または想像、つまり、第三者には捏造と判断されるかの、極めて危うい二者択一の学問であり、自論展開は試し打ちであり、決定打になる保証はない。

従って、一般的に、歴史研究家と呼ばず、歴史解説者、歴史紹介者、歴史照会者、簡単にすれば、歴史講釈師であろう。

だが、歴史から学ぶことは沢山にある。

これを機会に偽造・捏造の発端と読売・吉野作造賞受賞者を調べた。

１．発端は昨年

[***東洋英和女学院院長に研究不正疑い　引用論文存在せず？2018/1/9(金) 21:44配信　朝日新聞***](http://hate5na7.hatenablog.com/entry/2018/11/09/233335) とある。

さすが、歴史的に長年にわたり、捏造記事に長けた朝日新聞だけあって、他人や他社の捏造には独特の勘が素早く働き、動きも素早い。

２．読売・吉野作造賞の１８人の著作

タイトルを見ると、これで賞？と思わせ、タレントの一発芸で、読売のコマーシャリズムが匂う。以下受賞作品を整理してみる。

この賞は、読売論壇賞と中央公論新社の吉野作造賞を一本化して２０００年に創設され、前年１月から１２月までに発表された単行本、雑誌論文を対象とし、選考委員会の厳正な審査により決定する。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 回 | 受賞作　受賞者名省略 | コメント　私注 |
| １ | 海の帝国 | 良書 |
| 転換期の日本経済 | 需要の不足が不況を生み出した⇒当たり前の話 |
| ２ | ワード・ポリティクス | コップを逆さにしてフタができましたの類 |
| ３ | 自由と秩序―競争社会の二つの顔 | 教科書 |
| ４ | 経済論戦は甦る | 経済週刊誌の記事 |
| 国際政治とは何か | 今さら |
| ５ | 東アジア・イデオロギーを超えて | ムリ！ |
| ６ | 憲法で読むアメリカ史（上・下巻） | 教科書 |
| ７ | 暗闘　スターリン、トルーマンと日本降伏 | このテーマは欧米には履いて捨てるほどあり |
| ８ | 「帝国」の国際政治学 | 古くて古い |
| ９ | 日本の統治構造 | 統治なく混沌あるのが日本で、研究時間のムダ |
| １０ | 日本産業社会の神話 | 勝手に神話との思い？ |
| １１ | 倫理的な戦争 | こんなものは戦争ではない |
| １２ | アカデミック・キャピタリズムを超えて | 超えた結果が、アカデミックハラスメントとセクハラ |
| １３ | 革新幻想の戦後史 | 日本では「革新」は「保守」であることの追求に欠けている |
| １４ | イギリス帝国の歴史 | 教科書 |
| １５ | 統合の終焉　ＥＵの実像と論理 | 実像などは私感であり客観性なし |
| 日本占領史1945―1952東京・ワシントン・沖縄 | **米国の**日本占領史 |
| １６ | 日韓歴史認識問題とは何か　歴史教科書・慰安婦・ポピュリズム | いちゃもんは「問題」ではなく、あくまでも「いちゃもん」 |
| １７ | 受賞作なし | 選考者が賢明だった！ |
| １８ | 集団的自衛権の思想史　憲法九条と日米安保 | 自衛権は思想ではないです |
| １９ | プロテスタンティズム | 賞の趣旨を「作」と「造」と解釈された？ |

この種の賞の選考要件の重要部分は、

鋭利（問題指摘の鋭さ）、強健（反論からの逞しさ）、華麗（反論させない）、素朴（粉飾がないこと）、上品さ（品無き論旨は喝！）であろう。